

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し法人の理念や目標を事業計画に反映させている。また理念目標を申し送りにて毎日唱和している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念を念頭にしたサービスを心掛け取り組んでいる。また法人の理念を事業所内に張り出し日々確認出来るようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>施設内の数箇所に理念を掲示している。利用案内時にハウスマネージャーよりご家族に説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族には大分浸透してきているが、地域にまで法人の理念を理解して頂く取り組みは行っていない。今後の課題と思われる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の買い物等で出かける機会を作り近所の方と挨拶を交わしたり、回覧版を回したりして触れ合う機会を多く作っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>保育園と年数回の交流を設けたり、地区で行われている月1回のサロンには定期的に出かけ交流を深めている。</p>	

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護予防教室を月1回地域で開催し地域住民を対象に認知症の理解や予防等の勉強会を行っている。	○	認知症について理解して頂く為に、各地域に出向き理解していただける様努力しているが、まだまだ地域の方に浸透していないと思われる。そのため、今後も教室内容等検討し引き続き行う必要があると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を各職員に会議等を活用し伝えている。また外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて検討・実践している。	○	職員の入れ替わり等で新人職員への浸透・理解の部分では今後も引続き行う必要があると思われる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討議題・懸案事項等を検討しGH内でのサービス向上につながる様取り組んでいる。また参加した方から具体的な意見が頂ける様、伝える内容も検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日義支所担当職員の方には不明な点等その都度確認しているが、施設に出向いて頂ける機会が少ない。	○	今後も、日義支所担当職員の方と連絡を密に取ると共に、施設にきていただける機会を設け、よりGHを理解して頂ける様、努力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等が必要なケースについては、管理者が対応する為、他職員は理解していない。	○	職員が担当する場面が少ない為、知識として勉強をする機会を設けていなかった。今後、必要に応じ勉強会を行なっていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員とコミュニケーションを多く取りGH内での虐待を見逃さない様注意・努力を行っている。	○	高齢者虐待防止法を勉強会の議題で取り上げていない為、今後学ぶ機会を設けていく。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアの方針や退去を含めたGHでの対応可能範囲等の説明を行って御家族に理解し、同意して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が仰られる言葉を『つぶやき』として拾い集めご本人の思いや不安等をケアに活かせるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度写真入りの利用者様の様子たより・GH便りの発行を行っている。また金銭管理については月毎利用明細を送り、半年ごとにサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には面会時やケアプラン提示・必要時の電話等で連絡を取り何でも言っていただけな雰囲気作りに留意している。出された意見要望についてはその都度話し合い反映させている	○	年2回ほどご家族が集まる機会を設けているが家族会の発足までは至っていない。今後、家族会を作れる様な働き掛けを行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と日頃からコミュニケーションを取り意見を聞く様心掛けている。また月2回の会議を設け意見や提案が繁栄される様にしている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その方らしい生活が送れる様、職員間で連携を取り、利用者様に合わせたローテーションを組んでいる。またその都度必要に応じた対応が出来る様、柔軟に職員配置を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員がケアできるよう心掛けている。また異動や離職でむを得ない際の引継ぎ等の面で最善の努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修等には出来るだけ多くの職員が参加できるようにしている。また参加した研修報告書を作成し会議で報告し職員間で情報共有できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	木曽地域にGHがない為、同業者同士の交流の機会はない。	○	今後木曽地域にも、GH同業者開所が予定されている為、可能な限り交流の場を作り資質の向上を行う必要がある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から各職員のストレスや悩みを把握する様努めている。また職員が気分転換できるよう休息室を確保している。	○	ユニット毎に休息室の利用に差がある為、全職員が十分休息し気分転換席よう工夫を行う。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働ける様、チャレンジシートや自己評価表を行っている。また資格取得に向けた支援を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用開始に当っては、ご本人・ご家族と必ず面接を行い、状況の把握を行っている。また利用可能な方についてはデイサービスを利用して頂きよりご本人の状態・不安等を理解出来る様にしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際はご家族とゆっくり話せる時間を取り不安の解消や希望等を伺うようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時等、ご家族の状況等の把握を行い、必要時には各ケアマネージャーと連絡を取り対応をしている。	○	比較的ケアマネージャーからの紹介で、GHに相談に来られる方が多い為、引き続き各ケアマネージャーとの連携を取り情報交換を行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人や御家族に可能な限り施設見学を行って頂き、GHの雰囲気を感じて頂いている。また入居後はご本人の状況に応じ、出来る限り御家族に面会に来て頂いている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の意識の中に、常に生活を共に送る仲間という意識を持ち、ご本人が穏かに生活でき、主役になる場面作りが出来るようにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の様子をのきめ細かくお伝えする事で、職員との信頼関係が築けて、ご本人を支える為の協力体制が出来ている。	○	ご家族によってはご本人との関係が希薄になっているご家族もある為、引き続ききめ細かな情報交換を行っていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族やご本人の思いを受け止めながら出来るだけご家族と、外出・外泊等で一緒に過ごして頂いている。また施設行事への参加や、日用品の補充等のお願いで面会の機会を多くしている	○	ご家族により面会の回数や行事参加・外出の回数が異なる為、ご本人の様子をお伝えしながら月1回以上を目安にご本人の様子を見て頂ける様引き続き働きかけを行っていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から継続して行っている習い事(俳句会等)に入居後も継続して行って頂いている。また、知人等の面会もできる限り行って頂いている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が楽しく過ごしていただける様、職員がお茶や食事の時間も出来るだけ会話の話題作りを行い、利用者様同士の関係が円滑に行く様働きかけている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了された方から特に相談等がない為継続的な関りは行っていない。	○	今後の課題として出来る限り地域密着サービスという点から、培った関係性を基盤に経過観察等の対応を行っていく必要性がある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いをくみ取れる様日々生活の中で声かけ・会話をし、ご本人の希望に沿う様努力している。また、意思の疎通の困難な方については、ご家族や職員で情報交換を行いご本人の気持ちをくみ取れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から、可能な限り生活歴を聴き取り、個別のプロフィール表を作成しご本人の価値観や人生を理解しようと努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様それぞれの生活の様子・リズム・変化の把握を行い、御本人が出来る事、やりたい事を心理面を含め理解するよう努力している。	○	利用者様の心理面・身体面から状況の把握を行うよう努力しているが、どうしても身体面に比重が行きがちである。より心理面を掘り下げて把握できるようにしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様が自分らしく生活できるようご家族やご本人の意見を踏まえ、月1回のカンファレンスを行っている。	○	ご家族やご本人からは、意見として要望を伺えて入るが、必要な関係者までは意見を確認できていない。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じて効果の確認や状況把握を行っている。また、見直し前に変化があった際はその都度検討し見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に個人記録を用意し、食事・排泄等記録している。また職員が情報共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じ、外出や受診等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設へのボランティアの依頼は行っているが、ご本人の意向を汲んでのボランティアの依頼は行っていない。	○	今後地域の資源をより把握し、御本人が希望する事へのボランティアの依頼が出来るよう意識していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自事業所を中心に活動する事が多い為、他事業者との話し合いは行っていない。地域の社会資源等を活用し、より生活を充実できるよう心掛けて行く。	○	利用者様の希望等を伺いながら、地域の活動(支所で行っている行事等)に参加できる場面をつくり利用者様の選択肢を多く作れるようにする。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと必要時は連絡を取るが、連携までは取れていない。	○	今後、地域包括センターと連携が取れるよう、運営推進会議等の参加を働きかけていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用者様のかかりつけ医の診療が受けられるようご家族と協力し通院を行ったり必要に応じ、往診や特変時の職員対応での受診等で医療機関に繋げる事が出来ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関で認知症の専門医(木曽病院精神科)と診断情報や認知症についての指示・助言をして頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスナースに何時でも相談出来る様連携が取れている。また必要時には、協力医療機関ナースに、相談を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関への情報提供・面会・病院関係者・ご家族と連携を取りながら様子の把握を行い退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、契約を結ぶ際にご家族と体調面の変化がある際について事業所の方針をお伝えしている。また状態の変化があった際はご家族、主治医、職員とで統一したケアが出来るよう情報共有を行っている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期の対応については事業所として条件が整っていない為、対応していない。事業所として『出来る事・出来ない事』を御家族にその都度説明を行い納得して頂くと共に、医療機関等に繋げるよう支援を行っている。	○	今後、利用者様の入居期間が長期化することも予測される為、再度終末期・重度になった際の検討や受け入れ体制の検討を行う事も考えていく必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が他事業所に移られる際は、支援状況の伝達を行うと共にダメージを最小限に出来るよう心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りやカンファレンスの際、利用者様との接し方や・声かけ方に注意を促すと共に、プライバシーの取り扱いに注意するよう各職員に徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ利用者様に意思決定して頂ける様、食事等で場面を多く作る様にしている	○	職員の入れ替わりがあり、利用者様に自ら選んで頂く機会が職員によって差が出来ていると思われる為、今後さらに意識して行っていく必要がある。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作ってはいるが特に決まてはいない。利用者様の様子やペースに合わせて生活できる様柔軟に対応している	○	職員によって其々利用者様に合わせるペースに差があり、十分配慮して対応で来ていない場合もある。今後さらに一人一人の思いに添うケアが統一して行える様努力していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時や朝の更衣の際はご自分で衣類を選んで頂ける様声掛けを行ったり、ご自分で出来る方については見守りを行っている。また理美容についてご本人の希望に合ったお店に行ってもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事を職員と一緒に行って頂き食事の準備や片づけを行っている。また職員と利用者様と同じテーブルを囲み楽しく食事が出来る様にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御本人が希望するお酒やおやつについては就寝前や入浴後等でご家族と相談し楽しんで頂いている。また、タバコについては現在希望される方はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	其々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。また尿意のない利用者様についても、定期的に様子を見計らってトイレでの排泄を心掛けている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の希望に添うよう毎日入浴して頂いている。時間帯については、夕方入浴を希望される方が多い為、概ね4時以降で入浴して頂くことが多い。	○	基本的には、出来るだけ毎日入浴していただける様支援しているが、ご本人の体調等で期間が空いてしまう事がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活のリズムが整える様、心掛けています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや食事作り等で利用者様が活躍できる場面を作っている。また、外出・個別ケアで楽しんでいただける様努力している。	○	身体的にレベルが落ちてきた利用者様に対して、役割や楽しんでいただける場面が少ない為、職員の工夫やご家族と相談し楽しんで頂ける場面を出来るだけ作っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力でご自分で数千円のお金を管理し、外出時に使用して頂いている方もいる。また施設で管理していても外出時等で、食事代等ご自分で支払って頂く様にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望に添って近所への買い物やドライブ外食等で外に出かけ気分転換を行っている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望に添えるよう、ご家族と相談し、行きたい場所や外食等個別で計画している。	○	利用者様の身体状況や職員の状況で個人差があると思われる為、どの方の希望も均等に添えるように職員で検討していく必要がある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に何時でも電話をかけられる様ご家族と相談して対応している。また友人やご家族宛てにはがきや手紙を書いて頂いている。中には居室に電話をひいて頂いている方もみえる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の方等いつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りを心掛けている。また特に面会時間を決めておらず、ご家族の希望にあわせて訪問して頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りやカンファレンス等で身体拘束を行っていないかケアの確認を行っている。なお、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	早番出勤時の7:00～17:00を目安に玄関の鍵を開錠している。夕方の施錠については地域性もある為御家族に説明しご理解して頂いている。また職員の意識も見守りを徹底し連携を取るようにしている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様と同じホール内でさり気無く利用者様の状況確認を行っている。夜間については定期的な巡視を行い様子確認を行うと共にその方の様子に合わせ直ぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に合わせ危険な物については管理を行い、利用者様が日常使用するものについては、職員が注意し見守る等の工夫を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様毎に、ひやり・はっとを作成し職員間で情報共有を行っている。また万が一事故が発生した際は事故報告を作成し事故原因と今後の予防策について検討し御家族に説明と報告を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当や心肺蘇生法について年1回職員が研修を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	事業所内で月1回防災訓練を行うと共に、運営推進会議で行政や地元消防団に避難経路の確認等で協力して頂いている。また地域組長を通じ地域の方にも協力を得られる様働きかけを行っている。	○	今後、地域消防団や行政の協力を得て、事業所内の避難訓練に年1～2回の割合で協力して頂く予定。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン提示の際や事故報告時等を利用し、今後起こりうる危険等についてその都度説明を行うと共にその人らしく過ごして頂く為に、施設の方針や利用者様の様子をお伝えしご理解して頂いている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い身体面等変化の早期発見につながる様、様子の記録をつけている。また特変があった際は速やかに医療機関に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個別に服薬管理表を作成し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。また処方箋もカルテに保管している。服薬時は個別に分包された物を職員管理で手渡しにて服薬して頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に対する勉強会を開くと共に、便秘に良い食材を食事に取り入れている。また個別に便秘に効果のある飲料等を取り入れ出来るだけ自然排便できる様心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食後は利用者様の状況に合わせ、モンダミン等の口腔洗浄剤を活用し口腔ケアを行っている。夜間については就寝前に義歯洗浄を行っている。	○	昼食後については口腔ケアの徹底が出来ていない。今後利用者様の様子を見て実行していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量確認が出来る様チェック表を作成し、利用者様の様子を職員間で共有し、栄養士・及び管理栄養士のアドバイスを受けるようにしている。		

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で感染症についてマニュアルを作成し職員が学習し予防・対策に努めている。また、インフルエンザの予防接種についてはご家族に確認を取り、利用者様に行って頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・キッチン周りの衛生・清潔を保てる様職員で計画実行している。毎日買い物に出かけ新鮮なものを提供している	○	冷蔵庫内の点検については、買い物の際に行っているが、食材の残り等、細かく確認していく必要がある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に看板を作成し、地域の方に親しみを感じて頂いている	○	新しいユニットは今後看板を作成予定である。また季節を感じていただけるよう、プランター等を作成し楽しんで頂く必要がある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がある食材や、郷土の食べ物等生活の中に取り入れるようにしている。また安心して過せる様、居場所作りを計画中。	○	季節を取り入れる様意識はしているが、時により、季節感やなじみのものが不足しがちになる為、職員と利用者様で工夫する必要がある。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファがあり、寛いで頂くスペースはあるが居場所とまでは確保できていない。	○	今後、共有通路等を有効活用し、ソファを置く予定である。

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し使い慣れた家具や馴染のものを用意して頂き、利用者様に心地よく過ごしていただける様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度・温度調整・換気等利用者様の様子を見ながらその都度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、手すりや浴室・トイレ・廊下等住環境が適しているか配慮し見直しを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様が混乱されたり様子が変わった際は、職員間で情報共有しご本人の不安を取り除ける様にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作ったり、ウッドデッキを活用しお茶を飲んだり寛いで頂ける様工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

グループホームグレイスフル日義(ユニット2)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所内の職員のレベルアップ及び利用者様の認知症ケア・症状の緩和のために、GH内でISOの目標にも挙げてあるが、セリフ集を活用し職員の声かけ・接し方が統一できる様計画を立て実行している。